

荒木先生への感謝

永野 宏

昨年 8 月の暑い日に荒木先生ご逝去の悲報に突然接して、ショックのあまりしばらく呆然とした状態にあったことを憶えています。それは、佐納先生から、ご病氣療養中の荒木先生は治療の効果もあり安定した状況におられるということを知っていたものですから、我々共著の『日本の地球電磁気学』の完成を頑張れば荒木先生にお見せすることができるだろうと思っていたからです。それができなくなってしまったことは痛恨の極みであります。

荒木先生には、私が米国留学後に NASA の静止軌道衛星の地磁気観測データを用いた磁気嵐急始 SC や地磁気脈動の解析に興味を持ち、地上の地磁気データを利用するために京大の地磁気世界資料解析センターに出入りする中で、ご研究のお話をお聞きし、また、私の研究の相談にもものっていただき、親しくお付き合いをさせていただくようになりました。板橋の国立極地研究所にも出入りして、南極での地磁気データや CNA データなどを解析していた関係で、東京での研究会などではよく荒木先生にお目にかかり、帰りには新幹線で名古屋までご一緒させていただいて、研究室でお会いする時とはまた違ういろいろな話をお聞きすることができました。今思い起こしますと、この 1 時間は至福の時であったと感じます。

勤務先の朝日大学で全学の基礎教育の責任者になった後には、雑務に追われてなかなか研究時間が取れなくなってしまいました。そのころ太田柁次郎先生から長谷川万吉先生のことをお聞きする機会があり、丁度佐納先生が朝日大学に着任されてこられましたので、二人で太田先生から学会創設時のことや戦時中のことなどのお話をお聞きしました。その結果、二人とも我が国の地球電磁気学史に強い関心を持つようになり、各所で関連文献の調査を行いました。書き上げた最初の原稿を荒木先生にお見せしたところ、興味を持って読んでくださり、歴史を調べることは大事であるとおっしゃっていただきました。更に通史は大変なのでまずは長谷川先生に関することを纏めるようにとのご助言をいただき、2002 年に『長谷川万吉と地球電磁気学』を出版することができました。荒木先生は巻頭に「本書刊行に寄せて」という文章を喜んで書いてくださり、感激いたしました。

その後に通史に取り掛かりましたが、荒木先生からはご助言や励ましのお言葉をお会いするたびにいただきました。更に荒木先生がご体調をお悪くされてからも原稿を読んでくださり、訂正すべき箇所に関してお電話で受けたまったこともありました。感謝の念に堪えません。1 日も早く通史を仕上げたいと思っております。ありがとうございました。荒木先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。